

【英語】

～ClassPad.net のファイルふせん・EX-word 機能を活用する～

英語の修辞技法を学ぶ授業

英語の作品をより楽しむために、修辞技法を学ぶ。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：修辞技法を学ばせることで、生徒が英語の作品に親しみを持って楽しめるようにする。

生徒向けの目標：修辞技法を学ぶことによって、英語の作品の新しい楽しみ方を知る。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・**プリント削減**：授業資料やワークシートの配布をファイルふせんを用いて行うことで、紙媒体の資料を削減することができる。
- ・**生徒の理解促進**：リンクふせんを用いて動画を配布することで、視覚と聴覚を使って理解させることができる。
- ・**探究学習促進**：EX-word 機能で生徒の読解やグループワークでの創作を補助することができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

【授業内容・目的】

修辞技法を学んで、文中で使われている修辞技法を見つけたり、自分でそれらの技法を使えるようになったりしよう！



概要の説明

本授業では英語で修辞技法について学び、文中で使われている修辞技法を見つけたり、自分でそれらの技法を使えるようになったりすることが目的だと伝えられる。

step2



修辞技法の紹介

最初に簡単なワークシートを個人で記入させる（5～10分程度）。ワークシートでは、各修辞技法を用いた英文と、修辞技法の名前（英語）と、その修辞技法の説明（日本語）が一緒になったものとを結びつけさせる。そのワークシートを提出させた後、教員は提出された物を投影しながら解説をする。その後、ファイルふせんで修辞技法の名前と説明をまとめた PDF を生徒に配布する。



Word 等で作ったワークシートをファイルふせんにし、授業支援機能を用いて生徒に配布する。生徒にはそのふせん上に手書き機能で記入させる。書き込み終えたファイルふせんは、課題として教員に提出してもらう。教員は課題の提出状況一覧画面を電子黒板等に投影しながら解説する。

その後、授業支援機能を用いて授業資料の PDF を貼り付けたファイルふせんを授業支援機能で生徒に配布する。

step3

修辞技法を探してみよう
Life is like a journey on a long road. Sometimes the way is easy, sometimes it's rough, but every step shows you something new.
The key to keeping moving is seeking, dreaming, and believing.

個人作業

教員が配布した短い文章（オリジナルのもの、著作権が切れたマザーグースの一節など）の中から、学んだ修辞技法を見つける作業をする。わからない言葉は調べてもよいものとする。時間が余ったら、各技法を使った文章を自分で考えて書いてみる。（10分程度）

Word 等で作った新たなワークシートをファイルふせんにし、授業支援機能を用いて生徒に配布する。生徒にはそのふせん上に手書き機能で記入させる。
わからない単語を調べる際には、EX-word 機能を使ってもらうといい。

※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step4

【グループワーク】
日本語で書かれた童話「桃太郎」のあらすじを、3つの場面に分けたものを配布します。
それらの中から2つを選んで、**先ほど学んだ修辞技法を用いた英文**に書き換えてみましょう！
すべての英文に修辞技法を用いなくてもよいですが、できるだけ多く、いろいろな種類の修辞技法を盛りためるよう考えてみてください！
※難しい単語については、あらかじめEX-wordふせんを配布します。

【桃太郎】
昔々あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。
ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、川上から大きな桃が、どんどんこっこ、どんどんこっこと渡ってきました。
おばあさんは、桃を家に持て帰ると、おじいさんと食べようと割ってみました。
すると、驚いたことに、元気な男の子が桃から現れました。
おじいさんとおばあさんは、「桃から生まれたから、桃太郎と名づけよう。」と言いました。
二人は桃太郎を大切に育てました。

グループワーク

日本語で書かれた、桃太郎のあらすじを3つの場面に分けたものを配布する。各班（5~6人）は、その中から場面を1つ選んで、授業で学んだ修辞技法を用いて英語で書く。難しい単語（鬼、雉など）については事前に EX-word ふせんを配布しておき、生徒が文章を書きやすいようにしておく。また、やや難易度の高い課題なので、作業中に教師は各班をまわってアドバイスをする。
書き終わったら教員に提出させる。

桃太郎のあらすじは、あらかじめ3つのテキストふせんに分けておく。それらと、難しい単語の意味を示した EX-word ふせんを授業支援機能を用いて配布し、グループワークをさせる。

生徒に作業をさせる際は、配布したテキストふせんに書かれている日本語の下に、同時編集機能を活用しながら英文を打ち込んでもらうといい。

書き終えたものは、課題として提出してもらう。

step5

【3班、第2の場面】
Momo-taro grew up as fast as a bamboo shoot after the rain, becoming a strong and brave boy. One day, he said to the old couple, "Dear Grandma and Grandpa, the time has come! I am going to fight and defeat the ogres!"
The old couple made some millet dumplings for Momo-taro.
...
...
...
...
...

発表・講評

各グループに作品を発表させる。代表者1人が読み上げてもよいし、台詞がある場合は複数人で読んでもよいものとする。各グループが発表する際には、提出されたテキストふせんを教員が電子黒板などに投影する。各班の発表後、そのまま教員が作品についてコメントする。文法等の誤りがあれば、ふせんに書き込んで指摘をする。

各グループが発表する際、提出されたテキストふせんを教員は電子黒板等に投影する。

文法上の誤りがあった場合などは、教師がテキストふせんに手書き機能などで指摘する。

指摘後のふせんは、後で各グループに返却するとよい。

step6

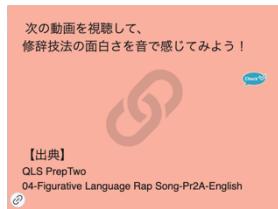
【修辞技法を学ぶ意味】
・英語で書かれた物語や詩を読むとき、洋楽の歌詞を読むときなど、多くの場面で理解が深まる。
→作品を、より楽しむようになる。
・身につけると、独特な表現を自分で作り出すこともできるようになる。
→日本語の表現にも生かせるようになる！

まとめ

授業で学んだ修辞技法を再度復習する。英語で物語や詩を読むとき、洋楽を聴くときなどに意識するとより作品を楽しめることを伝えて、授業を締めくくる。

教師はテキストふせんを用いて授業のまとめを作成し、電子黒板等に投影して説明をする。

step7



【宿題】

- 修辞技法が用いられた表現を、読むのではなく、耳で聞いたときの効果にはどんなものがある？
- 英文の中に使われていた修辞技法を日本語に翻訳した際、どんな問題が生じる？

これらのことについて考察してみよう！
→ テキストふせんに考えを記述して提出！

参考・補足

YouTube の動画をリンクふせんで配布した上で流し、耳で聴いたときの修辞技法の効果について考えさせる。また、英文の中に使われている修辞技法を日本語に翻訳する際に生じる問題についても考えさせる。

これらのことについて考えたことを書かせ、提出させることを宿題とする。時間ががあれば、次の授業の冒頭で気になったコメントをいくつか選んで教員がクラスに共有する。

YouTube 動画「04-Figurative Language Rap Song-Pr2A-English」(<https://www.youtube.com/watch?v=3K9pd6h9JT0>) の URL を貼り付けてリンクふせんから動画を視聴する。

その後、教員はテキストふせんで宿題を提示する。

生徒にはテキストふせんに宿題で提示したことに対する考えを書かせ、課題として提出してもらう。